

平成22年2月

# 三谷管雄 学位論文審査要旨

主査 岸本拓治  
副主査 萩野浩  
同 黒沢洋一

## 主論文

Risk factors for second hip fractures among elderly patients

(高齢者における大腿骨近位部骨折再発の危険因子)

(著者：三谷管雄、清水正人、安保雅博、萩野浩、黒沢洋一)

平成22年 Journal of Orthopaedic Science 掲載予定

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は2001年1月から2007年12月の間に転倒による大腿骨近位部骨折を受傷して鳥取県中部の整形外科病院を受診した384人を対象として、再骨折の危険因子を後ろ向きコホート研究により分析、検討したものである。その結果、調査期間での発生率は43人/千人・年で、再骨折患者の85.7%が初回骨折の3年以内に受傷していた。再骨折の有無と合併症の有病率では呼吸器疾患と認知症で有意の差が認められた。呼吸器疾患と認知症を性、年齢で調整したCox比例ハザードモデルを用いた分析では、認知症(ハザード比1.87: [95%信頼区間 1.02-3.41 P=0.042])と呼吸器疾患(ハザード比:4.41[95%信頼区間2.33-8.34 P<0.001])が再骨折に有意に関連していた。本論文の内容は、今後の高齢化で増加すると予想される大腿骨近位部骨折の予防・対策に寄与するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。